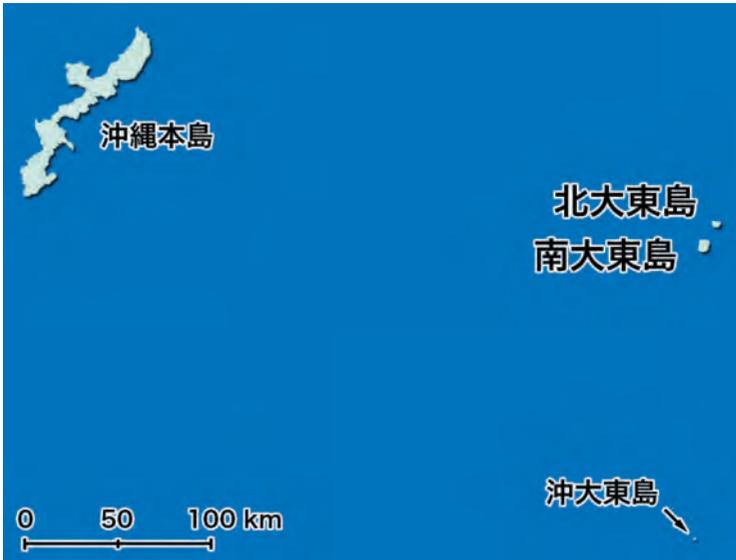


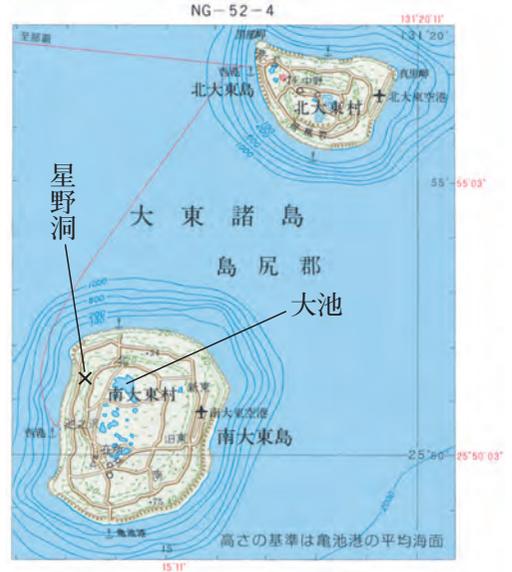
絶海の大東諸島

<伊達正和>

南・北大東島は、九州本土から600km弱、沖縄本島からも約300km離れている小島であるが、台風に関する情報の発信など、わが国にとって、太平洋に突き出た重要な位置を占めている(第1図)。沖縄本島から毎日飛行機が出ており、観光客も訪れることができる。



第1図 南・北大東島の位置図。沖大東島は現在無人島である。



第2図 南・北大東島の地形図。国土地理院発行20万分の1地勢図「那覇」を使用。星野洞と大池の位置を追加記入。2つの島の間の海は、水深1,000mを超えている。

写真1

両島とも海岸は急崖であるが、島内はへこんで平坦である。さんご礁(環礁)が隆起したためである。現地では、内部の平坦地を取り囲む崖を「長幕」、その内側と外側をそれぞれ「幕内」「幕上」と呼んでいる。写真は北大東島の長幕を幕内から見上げたところである。「長幕崖壁及び崖錐の特殊植物群落」は国指定天然記念物である。



写真2

島を取り囲む荒々しい海岸が上陸を阻み続け、入植が始まったのは約100年前のことである。

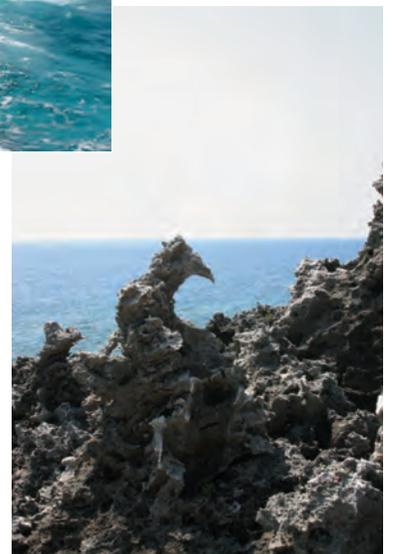


写真3

海岸部はごつごつとした石灰岩の奇岩・怪岩からなり、何かの動物のように見える岩もある。



写真4 波が荒いため船は接岸出来ず、貨物や乗客はクレーンで運ばれる。



写真5 島内には赤土の畑が広がっており、サトウキビ栽培が盛んである。赤土の成因については風化論，風成論などの論争が続いている。幕上の畑の向こうに海が見えている。



写真6 かつて北大東島には燐鉱山があり、終戦直後まで稼業していた。



写真7 北大東島から南大東島を望む。



写真8 星野洞は大東諸島最大の鍾乳洞で、鍾乳石などの保存状態が良い。



写真9 南大東島の大池は沖縄県最大の淡水湖といわれている。昔は潟湖だったことの名残であろうか、オヒルギ群落が見事であり、国指定の天然記念物になっている。

地質や地形の説明には、地質情報研究部門の兼子尚知、中澤努、須藤 茂各氏の意見を参考にさせていただいた。